

研究の概要

20 21 年 5 月 1 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	体外受精後の流産症例におけるNext-generation sequencing(NGS)法による流産絨毛染色体検査を用いた研究
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック・中岡義晴
研究の目的：	<p>流産の6-7割は胎児の染色体異常が原因と考えられています。染色体に異常のある胎児のほとんどは正常に発育ができずに流産となります。胎児の染色体を調べる絨毛染色体検査は流産原因を知るためには欠かすことができない検査であり、その結果を妊娠に向けての治療方針検討に用いています。本研究では、体外受精後に流産となった症例の治療経過を後方視的に比較検討し、胎児の染色体異常の予測因子を抽出・検討することを目的としています。</p> <p>日本産科科婦人科学会、日本生殖医学会などで、体外受精後の流産絨毛染色体検査結果に関する調査・検討は実施されており、有用な情報として学会会員に利用されています。個人を特定できない範囲で各学会へ情報提供を行います。</p>
調査データ該当期間：	20 18 年 11 月 1 日 ~ 20 22 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	電子カルテ上の診療情報の提供をお願いします。具体的には、初診時の母体のBMI、妊娠・流産回数、体外受精・移植の方法、移植胚、妊娠後の経過、流産絨毛染色体検査結果などの情報が該当します。
個人情報の取り扱い：	氏名・住所・電話番号など個人を特定できる情報は使用いたしません。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 院長 中岡義晴
備考	